

かほだより

暑さ対策始めてますか？

この夏の天気は？ ～～気象庁の3か月予報〔関東甲信越〕～～

平均気温 6月	平均気温 7月	平均気温 8月
低20 並40 高40% 平年並みか高い 見込み	低30 並30 高40% ほぼ平年並み の見込み	低20 並30 高50% 高い 見込み

夏本番を迎える前に対策を進めましょう。

畜舎外の対策

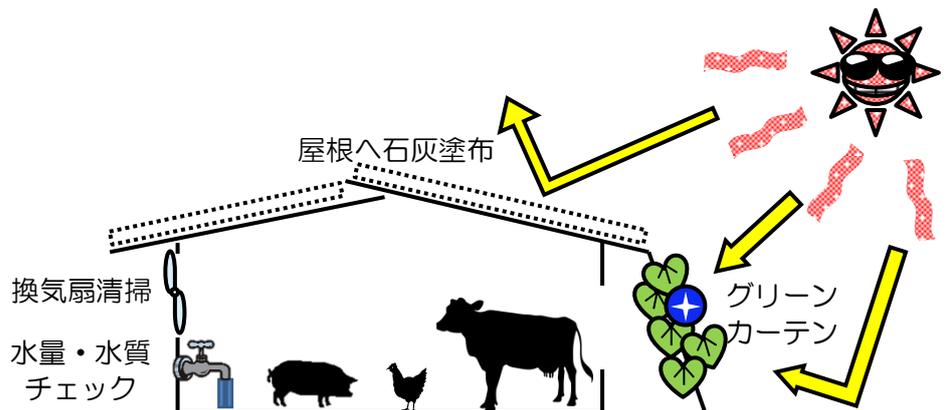
- ・ 南側、東西の窓によしや寒冷紗、グリーンカーテン(つる植物)を設置し、畜舎内に日が差し込まないようにする。地面からの反射熱も防げる。
- ・ 屋根へは石灰を塗布する。(100平米あたりドロマイト石灰50kg、石灰50kgに対し水100L。石灰塗布器を貸出可能です。早めに申し込んでください。)

畜舎内の対策

- ・ 換気扇や扇風機で送風
- ・ 細霧装置などを使用して水分を散布(湿度の高い日や畜舎内に風がない時は不可)

家畜への対策

- ・ 飼養密度を下げる
- ・ 毛刈り(牛：首から肩にかけて。初産牛は胴体全体。)
- ・ 冷たい水が十分飲めるようにする(給水管の大径化、ウォーターカップ[®]やニップルの流量確認と清掃、水圧が足りない場合は貯留タンクの設置等)
- ・ 涼しい時間に飼料給与(夕方から夜間に)
- ・ 良質な飼料を給与して食欲低下を抑える
- ・ 飼槽を補修・清掃し、腐敗臭がしないようにする



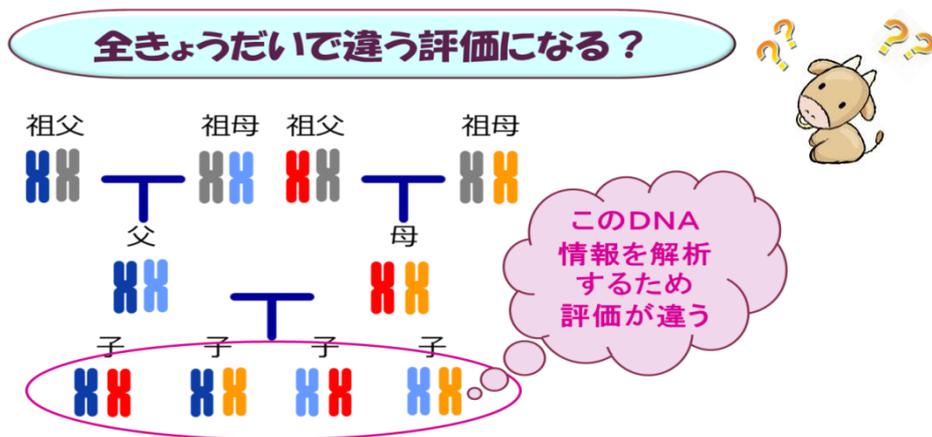
～黒毛和種の早期改良に利用できるかも?!～

「ゲノミック評価」という言葉を、耳にしたことありますか？

この「ゲノミック評価」というのは、ホルスタインでは、もうすでに活用されている技術で、親の遺伝的能力を把握する手法として開発されたものです。近年、和牛でも解析できるようになり、従来の育種法と比較して、信頼度の高い遺伝情報を早期に推定できる技術として期待されています。そこで、今回はこの「ゲノミック評価」についてお話ししたいと思います。

☀ ゲノミック評価とは・・・

ゲノミック評価は、個体ごとに異なるDNA情報を解析して遺伝的能力を推定する新しい評価手法です。ゲノミック評価は、毛根や血液由来のDNA情報を活用するため、子牛段階での評価が可能となります。個体のDNA情報は異なるため、全きょうだい間での評価も可能です。



＜育種価とゲノミック評価のメリット、デメリット＞

	メリット	デメリット
育種価	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析数多い (125,819頭) ・全国和牛登録協会での解析 ・市場名簿、登録書にも記載 	<ul style="list-style-type: none"> ・両親(母牛と父牛)の育種価がないと評価できない ・後代(産子)の枝肉データを解析するため評価に時間が掛かる ・子牛の期待育種価は両親(母牛と父牛)の育種価の平均で算出
ゲノミック評価	<ul style="list-style-type: none"> ・子牛段階での評価が可能 ・全きょうだい間での評価も可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析数少ない (14,344頭) ・検査料が高い ・家畜改良事業団での解析

- ◇ 第11回全国和牛能力共進会が今年9月7日(木)～9月11日(月)に宮城県で開催されます。
- ◇ 長野県からは若雌の部2頭、去勢肥育牛の部2頭が出品予定です。現在、候補牛は合計35頭、県代表を決める集合審査は7月20日(木)に県中央家畜市場で行われます。
- ◇ 管内の候補牛は、松本ハイランド農協2頭、塩尻市農協3頭、洗馬農協2頭、木曾農協3頭、三岳牧場5頭です。皆さん応援お願いします！